林産試だより

ISSN 1349-3132



『ほくでん 北森カレッジ 共創の森』育樹活動の様子
（北森カレッジニュースより）



「道民森づくりの集い2026」出展の様子
（林産試ニュースより）

・「木になるフェスティバル」を開催しました ・・・・・・・ 1
・CLT実験棟における屋内外の接着耐久性試験の紹介 ・・・・・・・ 3
・木材利用の次元を上げる話 ・・・・・・・ 6
・行政の窓
〔道産広葉樹の有効活用に向けた採材・仕分け研修会の開催について〕 ・・・・・ 9
〔林業労働実態調査（令和7年度実績）の概要について〕 ・・・・・ 10
・林産試ニュース・北森カレッジニュース ・・・・・・・ 11

11
2026

道総研
(地独)北海道立総合研究機構
林産試験場

「木になるフェスティバル」を開催しました

企業支援部　普及連携グループ　渡辺 誠二

■はじめに

林産試験場では，例年，木材や科学技術，研究への興味・理解を深めてもらうため，試験場を公開し，木を使った様々な体験ができる「木になるフェスティバル」を開催しています。

第 35 回となる今年度は，子どもを対象に午前・午後各 75 名の事前申込制により，9 月 27 日（日）に開催しました。主催は林産試験場のほか，北海道立北の森づくり専門学院，（一社）北海道林産技術普及協会で，道総研上川農業試験場の協力により，7 つのブースで催事を行いました。来場の方々には，普段経験できない体験を楽しんでもらえたと思います。ここに，フェスティバルの様子を簡単にご紹介します。

①木材を腐らすヤツら

木材の腐朽や保存処理についての知識を深めてもらうため，腐朽した木材細胞や保存処理に係るインサイジングの穴などを，ハンディ顕微鏡を使って観察したり，マイクロスコープを使って大型モニターで観察したりしました。油性と水性の溶液が木材に浸み込む様子を観察し，溶液の違いにより浸み込み方が異なることに触れ，不思議な様子でした。




②木粉粘土を作って遊ぼう

シラカンバ，トドマツ，カラマツの木粉の中から好きな木粉を選び，でんぷん糊と混ぜて粘土にし，この粘土で好きな形にする体験をしました。

糊と混ぜ合わせた木粘土が，粘りついてなかなか作業が進まず苦労していた方も見られましたが，思い思いの形に粘土が仕上がると皆さん満足そうでした。




③「木のかけら」のヒミツを知ろう！　オリジナルストラップ作り

製材の板，合板，CLT，圧密材など多種類の木質材料から，使う素材を参加者に自由に選んでもらい，素材に開けられた穴に紐を通してストラップを作成しました。用意されていたペンで素材に好きな絵を描いて，自分だけのストラップができてうれしそうでした。




④box ティッシュケースを作ろう！

あらかじめ用意されていた部材を組み立てて，箱ティッシュペーパーを入れる木製ケースを作りました。部材には組手加工が施されており，凹凸（おうとつ）をつなぎ合わせ立体的なケースに仕上げていきます。若干の接着剤を使うものの，金づちを使い適正な力加減で叩くだけで角部がつながることに，精巧に加工された組手を体験してもらえたようです。




⑤「木」の校舎の北森カレッジで，「木」のコースターをつくろう！（北海道立北の森づくり専門学院）

樹皮付きの細い木の棒をノコギリで輪切りにして，それに絵を描き，オリジナルコースターをつくってもらいました。初めてノコギリを使う子供さんもいたようです。ノコギリの刃が引く時に切れるようになっていることに，始めはおぼつかなかったものの，切り終わるころには慣れた手つきになっていました。また，催事会場は北森カレッジの校舎の中でしたので，道産木材がたくさん使われた校舎も体験してもらえました。




⑥森を知り，木を知る Part 2
（(一社)北海道林産技術普及協会）

林産試験場内にある木と暮らしの情報館を会場に，森や樹木，木材に関するクイズに挑戦してもらいました。問題の答えは会場内のパネルに示されており，注意して見ることで答えがわかるようになっていました。正解数に応じて，木の葉っぱのしおりや，動物をかたどった小さな木製人形がもらえました。




⑦むしマスコットを作ろう（道総研上川農業試験場）

協力機関の道総研上川農業試験場で企画した催事です。水田や畑の虫について知識を深めてもらう目的で，フェルトやモールを使って，水田や畑の虫をイメージしたマスコット作りをしました。また，希望者には麦の穂のドライフラワーを持ち帰ってもらいました。もらった方は，普段はまず触ることがない麦の穂を手して，感触や穂の香りを楽しんでいました。




■おわりに

「木になるフェスティバル」は，毎年来場者に好評をいただいており，人気のあるイベントとなっています。林産試験場が提供できる催事の分量の関係で，ご来場の方には定員を設けて事前申込制をとっておりますが，今年も受付開始から１日足らずで定員が一杯になりました。定員の関係でご来場いただけなかった方を考えると，主催者として大変心苦しいところで，平にご容赦をお願いする次第です。また，ご参加の方々には，時間を割いてご来場いただいたことに，感謝申し上げます。

「木になるフェスティバル」では，子供たちは生き生きと楽しそうに工作などの各催事を体験していました。年に一度のイベントですが，森や樹木，木材を使った催事を通して，子供たちの可能性を引き出すきっかけになったのではと感じています。林産試験場では，これまでの経験を活かしながら，来年も当イベントを開催予定ですので，今年同様のご高配を頂けると幸いです。

CLT 実験棟における屋内外の接着耐久性試験の紹介

技術部　生産技術グループ　中村 神衣

■はじめに

木質材料を安全に使用するためには，材料を構成する接着剤の性能について把握する必要があります。接着性能には，製造された当初の性能と経年後の性能があり，前者の場合は，規定された促進劣化処理を行い，接着層について評価することが一般的です。後者の接着耐久性の評価については，様々な推定方法が検討されてはいますが，実際に使用される環境によって，温湿度，日射，水がかり等，複雑な環境要因が影響を及ぼします。そのため，実使用環境における経年後の木質材料の接着性能を評価することも重要です。

比較的新しい材料であるCLTの接着耐久性についてですが，一見，積層方向が異なるだけの集成材と同じと考えても良さそうに見えます。しかし，ラミナを平行に積層する集成材と比較して，CLTの場合は，膨潤収縮に異方性のある材料を直交積層しているので，接着層付近にかかる応力が，より大きいことが推察されます。したがって，CLTの接着耐久性に関する知見を蓄積することが必要です。しかし，これらに関するデータは，現状ほとんどありません。

そこで，2019年林産試験場内に竣工したCLT実験棟[1–3]（以下，実験棟）の屋内及び屋外（テラス下）において，CLTブロックの暴露試験を行いました。試験開始から5年経過後の接着性能について報告します。

■試験概要

実験棟屋内外にて，実験棟床に使用されたCLTと同じ生産ロットのCLTを幅120×長さ120×高さ210 mmに加工したブロックを暴露試験に供しました。屋内暴露は，実験棟内に置いたかごの中に入れて静置しました（**図1**）。

供試されたCLTの構成は，7枚のラミナが積層され，最外層に平行層がある5層7プライのCLTブロックです。ちなみに，CLTにおいて，同じ繊維方向に並べたラミナを「層」，ラミナの積層数を「プライ」といいます。樹種は，カラマツ及びトドマツ，接着剤には，水性高分子ーイソシアネート系接着剤が用いられています。この接着剤は，CLTのJAS[4]では，材料が高含水率になったり，日射等により高温になることが「ときどき」である使用環境Cに分類されているため，本試験においても継続的には日射，雨や雪の当たらないテラス下としました（**図2**）。暴露開始から1年間の屋内外の温湿度を**図3**に示します。屋外暴露試験地の最高温度は32.2℃，最低気温は-26.4℃でした。屋内の最高温度は50.0℃，最低温度は1.2℃でした。屋内については，冬場に暖房の不具合により，一時的に高温低湿度状態になり，木材にとって過酷な環境となりました。



図1　屋内暴露試験の様子





図2　屋外暴露試験の様子

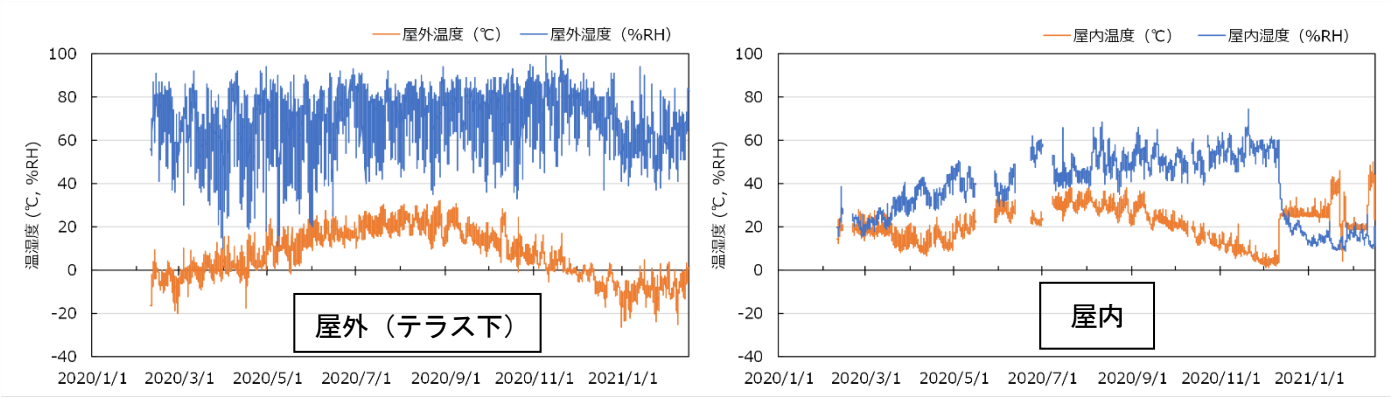


図3　年間温湿度変化

■屋外暴露 5 年後の試験体

図4は，屋外暴露開始から5年後のCLTブロックです。屋外に暴露していた試験体については，各側面によって変色の程度が異なりました。実験棟の中央に向く北側では，暴露開始時よりトドマツについては黄色味が，カラマツについては赤味がやや増した様子でした。一方，テラス開口部に向いていた南側面では，両樹種ともに褐色に変化しており，変色の程度が著しかったことが見受けられました。側面については，結束バンドで固定していたため，中央付近を境界として変色の程度が異なり，南側半分でグレーがかった変色が見受けられました。



北側　　側面　　南側

カラマツ



北側　　側面　　南側

トドマツ

図4　屋外暴露5年後のCLTブロック

■屋内暴露5年後の試験体

屋内に暴露していた試験体については，屋外とは異なり，各側面における変色の程度の差は，それほどなく，各樹種ともに本来の材色に近い色を呈していました（図5）。



カラマツ　　トドマツ

図5　屋内暴露5年後のCLTブロック

■剥離試験

回収したブロックから幅75mm×長さ75mm，高さはそのままの剥離試験体を切出し，減圧加圧剥離試験に供しました。その結果，を表1に示します。暴露開始から3年後に行った試験結果も合わせて報告します。剥離率のJAS基準は，10%以下であることとなっています。いずれの年数及び条件においても，基準をクリアしていることが分かりました。また，表中には示していませんが，基準には他にも，最大剥離長さの基準も平行層，直交層ごとに設けられていますが，これについてもすべての試験体でクリアしていました。

表1　減圧加圧剥離試験結果　剥離率(%)

経過年数	カラマツ 屋内	カラマツ 屋外	トドマツ 屋内	トドマツ 屋外
0年	0.94		0.47	
3年	1.00	0.35	2.53	0.97
5年	2.63	0.52	0.50	0.60

表2　ブロックせん断試験結果

		平行層				直交層 (JAS)				直交層 (45°)			
		カラマツ		トドマツ		カラマツ		トドマツ		カラマツ		トドマツ	
経過年数		屋内	屋外	屋内	屋外	屋内	屋外	屋内	屋外	屋内	屋外	屋内	屋外
初期	せん断強さ平均(Mpa)	9.78		8.28		3.15		2.25		4.35		3.40	
	変動係数(%)	19.3		10.6		35.4		37.8		20.3		17.6	
	木部破断率平均(%)	99		100		100		100		100		100	
3年	せん断強さ平均(Mpa)	11.06	10.14	9.14	8.15	2.68	2.95	2.45	2.08	4.75	4.54	3.32	3.08
	変動係数(%)	16.6	13.7	11.8	10.0	32.4	31.0	31.0	21.1	20.2	15.8	13.4	12.5
	木部破断率平均(%)	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
5年	せん断強さ平均(Mpa)	11.70	10.18	8.32	9.10	3.08	2.54	1.90	2.04	4.98	4.85	3.23	3.38
	変動係数(%)	12.0	23.7	22.0	15.1	47.5	32.8	48.6	23.8	18.9	14.6	36.5	12.2
	木部破断率平均(%)	100	98	97	100	100	100	100	100	100	100	100	100

■ブロックせん断試験

ブロックせん断試験片は，3種類の方法で採取しました。平行層については，せん断力の加力方向が繊維方向と平行となるように採取しました。直交層については，JASに準じた方法であるブロックせん断試験片の片側のブロックの繊維方向が加力方向と平行となるものと（直交層JAS），両側のブロックの繊維方向が加力方向に対し45度となるように採取したもの（直交層45°）を供試しました。直交層45°の試験方法は，直交層JASに比べてローリングシアー破壊やめり込みが生じにくくなること等からCLTの直交層の接着性能を評価する手法として検討されています[5)]。

CLTのJASでは，直交層については，せん断強さの基準値はなく，カラマツ，トドマツの場合は，木部破断率（木破率）が65%以上であることが基準となっています。平行層については，せん断強さの基準値はカラマツ7.2MPa，トドマツ6.0MPa以上かつ木破率65%以上という基準となっています。

初期値，暴露開始から3年後及び5年後の試験体のブロックせん断試験の結果を表2に示します。屋外，屋内いずれの条件においても初期値と同等の性能を示し，5年間の屋外及び屋内暴露後も，CLTの接着性能は，初期性能をおおむね保持していることが分かりました。また，直交層（45°）は，直交層（JAS）と比較して，変動係数の値が小さく，値のばらつきが低減されることが分かりました。

■おわりに

本報告では，屋内及び屋外暴露5年経過時のCLTの接着性能を確認し，初期性能をおおむね保持していることが分かりました。今後も引き続き調査を行い，CLTの接着性能についての知見を蓄積していきたいと思います。

■参考文献

1) 高梨隆也：林産試だより 2021 年 8 月号, p.6（2021）
2) 石原亘：林産試だより 2021 年 5 月号, pp.2-5（2021）
3) 大橋義徳：林産試だより 2021 年 9 月号，pp.1-2（2021）
4) 日本農林規格 JAS3079-1 直交集成板 2025 年 2 月 28 日改正版（2025）
5) 石原亘ら：木材学会誌 2021 年 67 巻 2 号，pp.100-108（2021）

木材利用の次元を上げる話

技術部　生産技術グループ　松本 久美子

■はじめに

「次元」という言葉から，何を連想するでしょうか。3D（Dimension：次元）プリンター，ドラえもんの4次元ポケット，あるいは，異次元の少子化対策など，次元は，日常でもよく使われる言葉です。科学的には次元とは，ある空間や対象の広がり，あるいは状態を決めるために必要な「独立した変数や方向の数（自由度）」のことです。具体的には，1次元は前後にしか動けない「線」，2次元は縦と横に広がる「面」，3次元は縦，横，高さのある「立体」の状態で，私たちが暮らす「空間」もこれに当たります。4次元以上の高次元は，私たちの目には見えないのでイメージできないですが，数学的には変数（パラメータ）の数や数式を拡張した空間として扱われます。本稿では，4次元を空間に「時間」という要素を加えたものとして考えます。純粋に次元の話そのものに興味がある方は『別冊 次元とは何か』[1]を，また読み物としては、次元の本質をとらえた風刺・SF小説の古典的名著である『フラットランド たくさんの次元のものがたり』[2]などを読んでみてください。

本稿では，筆者が主に関わってきた研究を中心に木材の使われ方を，次元を上げながら私たちの日常にどうかかわるのか，平易に述べたいと考えています。多少強引なきらいはありますが，お付き合いください。

■1次元　木材の本質は「線（繊維）」

木材は，単純に述べれば繊維の塊です。目の前にある立木や材木などから想像することは難しいですが，イメージとしては，ストローの束のようなものです。中が空洞のつくりになっているため，重さのわりに強度があり（専門用語では比強度が高いと言います），このため，梁や柱など建築物を支える軸として使われてきました。またストローの束ゆえに，力のかかる方向によって強くも弱くもなる，という特徴を持っています（異方性）[3]。

塊である木材を粉砕して繊維にすることもあります。これらは，そのスケールにより，ナノファイバーとして，紙の原料として，あるいは次章で述べるボード類の原料として使われます。元来が繊維であるため，その原料として非常に優れているのです。

■2次元　「線」から「面」へ建材を作る

木材を１次元の線状にした繊維に，接着剤を塗布して固めると，MDF（中質繊維板）等の繊維の板ができます（**写真1**）。他にも板状のものに，薄い板を交互に重ね合わせた合板，チップ状の小片を固めたパーティクルボード，挽板を交互に貼り合わせた直交集成板（CLT）などがあります。このように，木材の繊維という線を直交，積層，再構成して「面」をつくり，建材として利用されています。

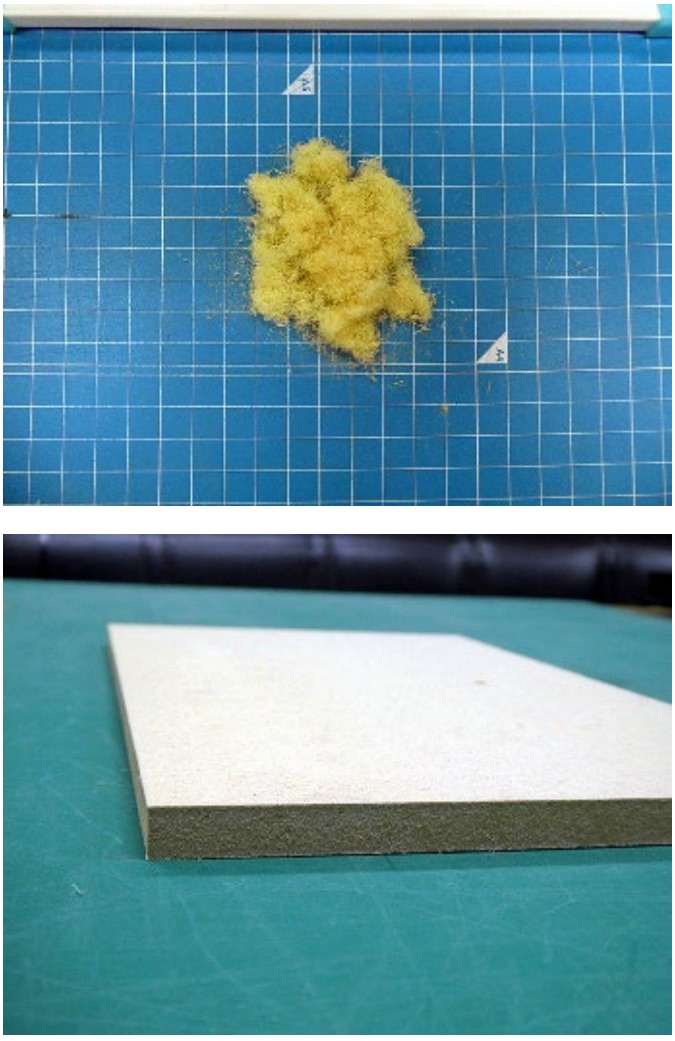


写真1　上：木材ファイバー　下：MDF

また，板を並べた壁や床も，木材の主要な用途の一つであります。筆者が携わった開発事例として，人とペット（犬）が安全，快適に過ごすための床材を北海道産トドマツで開発したものがありました[4]。これはトドマツの表面に浮造りを施して，犬にとって滑りにくく，人にとって足触りの良い床材の製造に取り組んだものでした（**写真2**）。

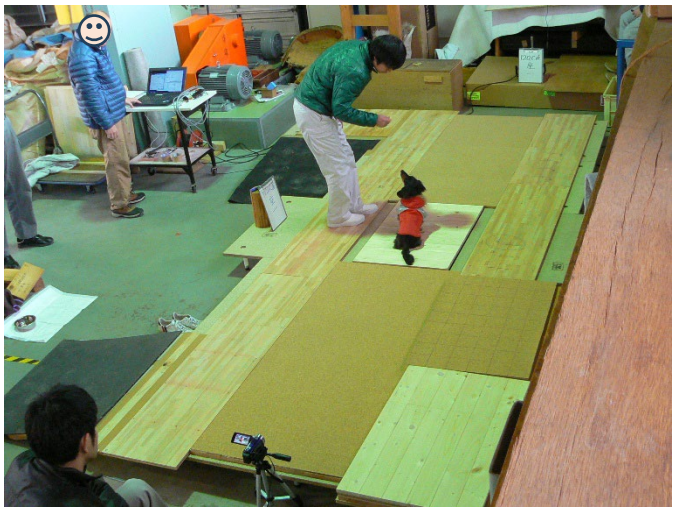


写真2　犬による実証試験の一コマ

■3次元　私たちの生活「空間」を造る木材

軸材料や２次元の面材である木質建材を使い，木造・木質建築物という空間が創造されます。今は公共物件など北海道のトドマツやカラマツといった針葉樹材が使われているのを目にすることも多くなってきました（**写真3**）。壁や床に木材や木質建材を使った場合，人が見て，触れて，あるいは木の香りを嗅いでといった五感を刺激することになります。

筆者は過去に，北海道産トドマツを壁に使ったときの見た目の好ましさの評価を，節の量をバロメータに実施しました。結果について，住宅の居間に使うという想定の場合，節の量が多いほど好ましさが低下する傾向にありましたが，使用する場所が学校や公共のホールなど住宅以外の場所では，節が増えても好ましさは低下しない傾向になりました。同じ木材の建材であっても，使われる場所により，人がどう感じるかが左右される結果となりました[5]。

■4次元　木材と触れ合う「時間」を増やす

木材は使われる空間によっても評価が変わる，という結果の他，着目すべき結果として，普段木材によく触れている木工職人さん，特に経験年数の長い職人さんは節のある木材であっても評価が高くなる傾向にあることが示されました[6]。これは単純接触効果に加えて，木材に関する知識が評価を上げていることが示唆されましたが，ここから，日常的に，そして継続的に木材に接することの重要性が示されました。

また，近年は，幼稚園や学校など，子供が過ごす場所に木材が使われるケースが増えてきました（**写真4**）。筆者は本年から，北海道教育大学附属旭川幼稚園の協力を得て，木質環境と子供についての研究を手掛けています。教育環境への木材利用推進の一助になる研究ができれば，と日々取り組んでいます。

ではなぜ，学校施設に木材なのか。心理学では，記憶の研究において，「なつかしい」という感情と学校という場所が結びついていること，「なつかしさ」が好意的感情を導きやすいことが示されています[7]。木材が，今後ますます好意的に使われ，普及していくためにも，多くの人が利用する施設はもとより，小さいころから木材に触れることになる学校施設への利用を進めていくことが重要ではないかと考えています。





写真3　建築物使用例（CLTパビリオン）
上：外観　　下：内装



写真4　梁や床に道産材を使用した保育施設

■おわりに

ここまで，次元と絡めて木材の使用例や研究を紹介してきました。木質内装材の見た目の好ましさを題材に研究を進める中で，好悪感情は木材そのものだけではなく，使われる空間や，評価する人が木材にどれだけ触れているのかが大きく影響することが示唆されました。また，記憶に関する研究の知見から，記憶が人の好悪感情やさらには購買行動にまで影響を及ぼすことが示されています。

そこから，木造空間で育った子供たちが大人になった時に，「なつかしさ」や「好ましさ」の感情に木材が寄り添い，それが次世代の木材利用へと繋がっていけばと，思いを馳せているところです。

■参考文献

1) ニュートンプレス：別冊　次元とは何か　改訂版（2024）
2) エドウィン・アボット・アボット：フラットランド たくさんの次元のものがたり，講談社(2017)
3) 戸田正彦：“林産試だより”，1月号，p.5-7(2023) https://www.hro.or.jp/upload/8956/2301-5.pdf
4) 松本久美子：“林産試だより”，7月号，p.4(2016) https://www.hro.or.jp/upload/8383/1607-4.pdf
5) 松本久美子：“林産試だより”，12月号，p.4(2014) https://www.hro.or.jp/upload/8237/1412-2.pdf
6) 松本久美子他：第64回日本木材学会大会発表要旨集，G13-P-11(2014)
7) 日本心理学会監修：なつかしさの心理学 第3刷，pp.8-11, 81-89(2022)

行政の窓

道産広葉樹の有効活用に向けた採材･仕分け研修会の開催について

道では，北海道森林づくり基本計画の重点取組の一つに「広葉樹資源の育成・有効活用」を位置づけ，先進技術等を活用した広葉樹資源の的確な把握や，広葉樹の育成に向けた森林施業の推進に加え，人工林施業に伴い伐採される広葉樹の有効活用に取り組んでいます。

本道の多様で豊かな森林で育まれた広葉樹資源を有効に活用するためには，家具などの付加価値の高い製品への利用を促進することが重要であることから，樹種や太さなどの需要者ニーズを把握するとともに，曲がりや節，腐れなどの欠点を活かした採材技術を習得するための研修会を次のとおり開催します。

＜広葉樹の採材・仕分け研修会のお知らせ＞

人工林の森林整備に伴い伐採された広葉樹を，より付加価値の高い製品として有効活用していくため，広葉樹市場のニーズに合わせた採材・仕分け技術を習得する研修会を開催します。

・開催日時：令和 8 年 12 月 1 日（火）12：00～15：00
・開催場所：道有林胆振管理区 97 林班 51 小班　山土場（勇払郡厚真町字幌内）
・集合場所：幌内マナビィハウス（勇払郡厚真町字幌内 607-1）
・集合時間：11：30 までにお越しください。
・対 象 者：空知・石狩・胆振・日高管内の林業事業体・森林組合・市町村・広葉樹需要者（家具メーカー等）
　40 名程度
・内　　容：北海道銘木市を主催する旭川林産協同組合の職員を講師とし，銘木市の概要，販売樹種のトレンド，採材・仕分け方法等を説明
・申込締切：令和 8 年 11 月 16 日（月）
　※お申し込みは，下記担当者までメール又は電話等にて，①所属・②職氏名・
　③電話番号・④メールアドレス・⑤車両情報（車種・ナンバー）をご報告願います。
　※参加希望者多数の場合は，人数を調整させていただく場合があります。
・昨年度の研修の様子（後志管内にて開催）





・申込先・お問合せ先
北海道水産林務部森林海洋環境局道有林課道有林整備係
TEL：011-504-5520　メールアドレス：suirin.doyurinkg@pref.hokkaido.lg.jp

（水産林務部林務局林業木材課林業木材係・森林海洋環境局道有林課道有林整備係）

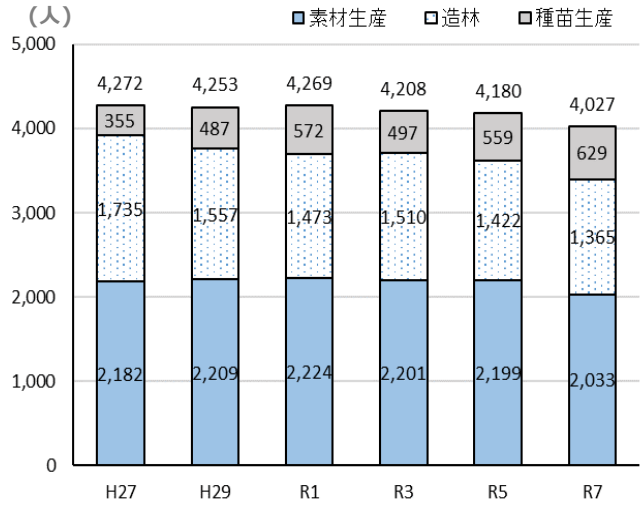
行政の窓

林業労働実態調査（令和７年度実績）の概要について

道では，素材生産や造林，種苗生産を行っている林業事業体を対象として，道内における林業従事者の実態を把握することにより，安全衛生の確保，技術・技能の向上，福利厚生の充実など，今後の林業労働対策の施策立案や統計に活用することを目的として，標記調査を隔年で実施しています。

1　林業従事者数の推移

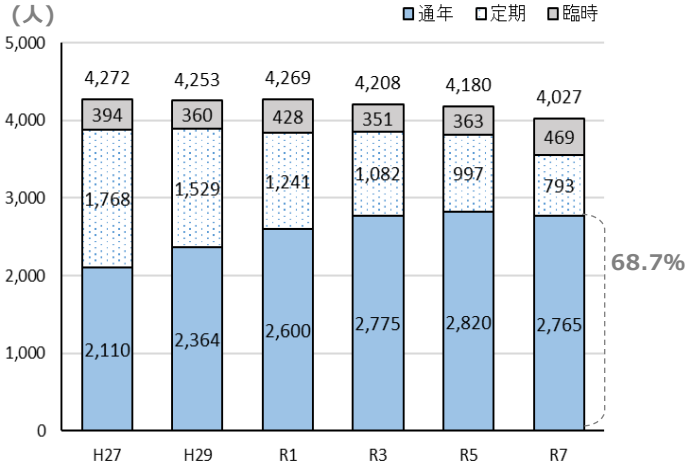
林業従事者数の合計は 4,027 人で，概ね横ばいで推移してきましたが，近年減少傾向にあります。



<従事者区分>
素材生産：　主に素材（丸太）生産に従事している者
造　　林：　主に地拵，植付，下刈等に従事している者
種苗生産：　主に苗木の生産に従事している者

2　雇用形態別林業従事者の推移

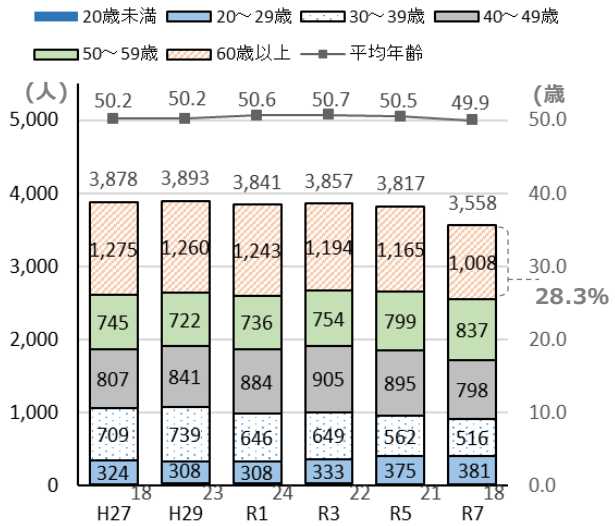
通年雇用者は 2,765 人で，従事者数全体の 68.7%を占めています。



<雇用形態区分>
通年雇用：　年間を通じた雇用
定期雇用：　被保険者期間が通算して１年未満６ヶ月以上の雇用
臨時雇用：　通年，定期以外で一時的な雇用

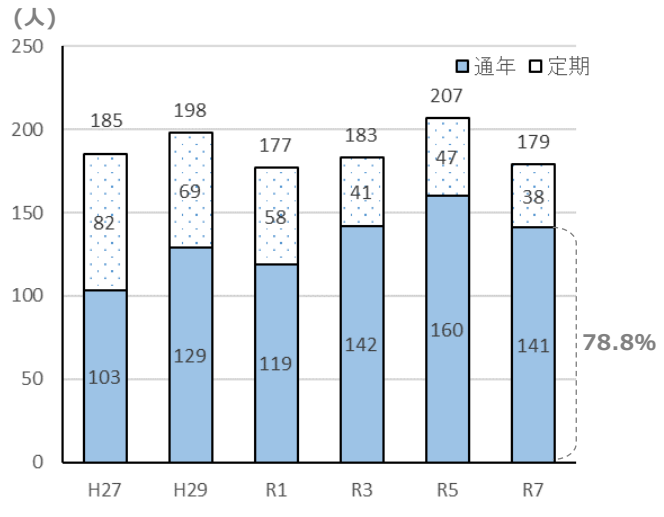
3　年齢別林業従事者数の推移

平均年齢は 49.9 歳で，概ね横ばいで推移していることるものの，60 歳以上の割合は 28.3%と依然として高い状況にあります。



4　新規参入者数の推移

新規参入者は 179 人で，通年雇用者が 78.8%を占めています。



詳細は，次の URL（林業木材課ホームページ）からご覧いただけます。

→　https://www.pref.hokkaido.lg.jp/sr/rrm/07_ninaite/n005.html

（水産林務部林務局林業木材課担い手育成係）

林産試ニュース

■「道民森づくりの集い 2026」に出展しました

令和 8 年 10 月 3 日（土），サッポロさとらんど（札幌市東区丘珠町 584-2）で開催された，「道民森づくりの集い 2026」に出展しました。この行事は，「森林や木材とふれ合う」，「森づくりに関心を持つ」，「森づくりに参加する」などのきっかけづくりの場として，森遊びや木工体験などができる参加費無料の木育イベントです。





【ワークショップの様子】

出展内容は，樹種や形状の異なる木材ブロックを用いたオリジナルのマグネット作りです。仕上がりを良くするために研磨したり，蜜蝋（ろう）ワックスを塗るなど，オープン直後から大盛況のイベントとなりました。

（林産試験場　広報担当）

北森カレッジニュース

■『ほくでん　北森カレッジ　共創の森』の育樹活動を実施！

2021年，ほくでんグループと北森カレッジの「共働」により，新たな森を「創生」するという思いを込め，『ほくでん　北森カレッジ　共創の森』と命名された森が，当別町の道民の森に生まれました。

今年で6回目となった活動は9月23日に実施しました。エゾシカの食害などで枯れてしまったエリアへの補植を行い，継続して森を育てていく取り組みとして，1年生の学生17名がほくでんグループの社員の方々と一緒に，アカエゾマツとヤナギを，400本の補植を行いました。

午後からは参加者全員で勉強会を開催。学生代表2名が，半年間の学びの成果や将来の目標を発表し，意見交換を行いました。

『ほくでん　北森カレッジ　共創の森』での活動は学生にとって，貴重な学びの機会になりました。1期生から育んできた森がこれからも健やかに成長することを期待しています。



【植樹の様子】



【勉強会で生徒が発表】

（北海道立北の森づくり専門学院　教務係長　今泉 純一）

林産試だより　2026年11月号

編集人　林産試験場
HP・Web版林産試だより編集委員会
発行人　地方独立行政法人 北海道立総合研究機構
森林研究本部　林産試験場
URL: https://www.hro.or.jp/forest/research/fpri/index.html

令和8年11月1日　発行
連絡先　企業支援部普及連携グループ
071-0198　北海道旭川市西神楽1線10号
電話　0166-75-4233（代）
FAX　0166-75-3621